

## 口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続＞

口永良部島では、火山活動の高まった状態が継続しています。

11 日から 14 日まで、気象庁機動調査班（JMA-MOT）による口永良部島の現地調査を実施しました。12 日に実施した赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、新岳火口縁の西側および西側の割れ目の先端付近に高温域を確認しました。また、13 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり、300 トン(前回 5 月 21 日：60 トン)と噴火前より増加していました。

### 【防災上の警戒事項等】

火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

## ○ 活動概況

### ・ 噴煙など表面現象の状況（図 1～5、図 7-①⑥）

8 月 3 日の噴火以降、噴火は発生していません。

気象庁機動調査班（JMA-MOT）が 11 日から 14 日に実施した現地調査では、新岳火口から白色の噴煙が最高で火口縁上 600m まで上がっているのを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口縁の西側および西側の割れ目の先端付近に高温域があることを確認しました。

### ・ 火山ガスの状況（図 7-⑤）

13 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 300 トン(前回 5 月 21 日：60 トン)と噴火前より増加していました。また、北側周回道路で観測中に、風下側で弱い硫黄臭を確認しました。

### ・ 現地での降灰および噴石調査

本村地区や北側の周回道路で降灰および噴石の調査を実施しました。降灰は降雨により流されており確認できませんでした。また噴石は確認できませんでした。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報（縮尺レベル 25000）』『基盤地図情報 10m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

・火山性地震・火山性微動の発生状況（図 7-②③⑦⑧）

継続時間の短い火山性微動を 13 日に 1 回、14 日に 3 回観測しました。13 日 07 時 12 分の微動に伴いごくわずかな傾斜変動を確認しました。いずれの火山性微動でも、噴煙等に特段の変化はみられませんでした。

3 日の噴火以降、火山性地震は少ない状態<sup>2)</sup>で経過しています。

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) 新岳火口に近い旧基準点（新岳北西）に比べて新基準点（新岳北東山麓）での検知力は低下していると考えられます。



図 1 口永良部島 噴煙の状況

11 日から 14 日に実施した現地調査では、新岳火口から白色の噴煙が最高で火口縁上 600m まで上がっているのを確認しました。



図 2 口永良部島 噴煙の状況

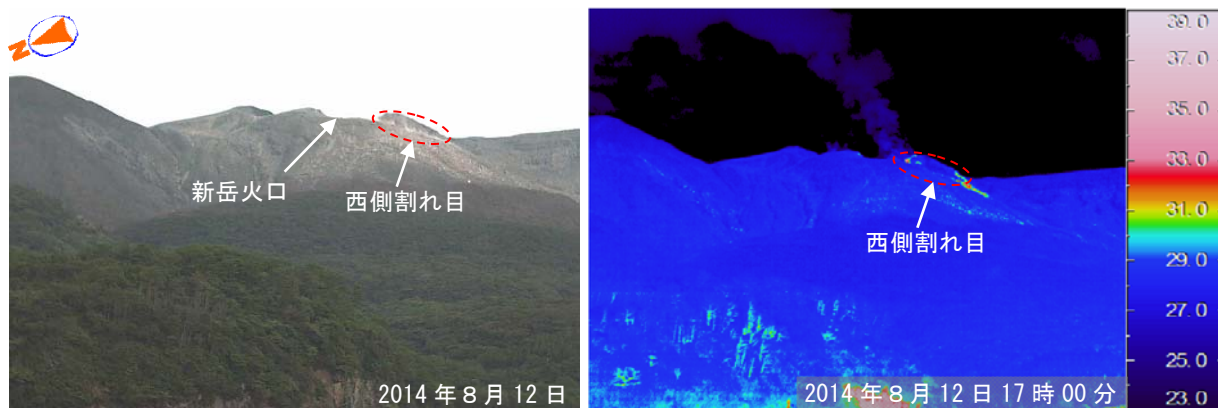


図 3 口永良部島 赤外熱映像装置による温度分布の状況

新岳火口縁の西側および西側の割れ目の先端付近に高温域があることを確認しました。

熱画像（右）下部の高温域は日射の影響によるものです。

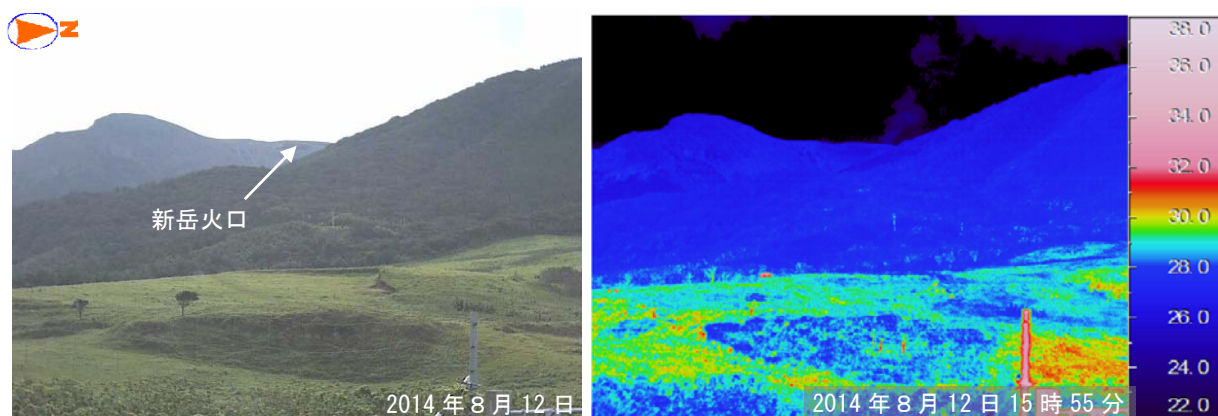


図 4 口永良部島 赤外熱映像装置による温度分布の状況

東側斜面には高温域は認められませんでした。

熱画像（右）下部の高温域は日射の影響によるものです。

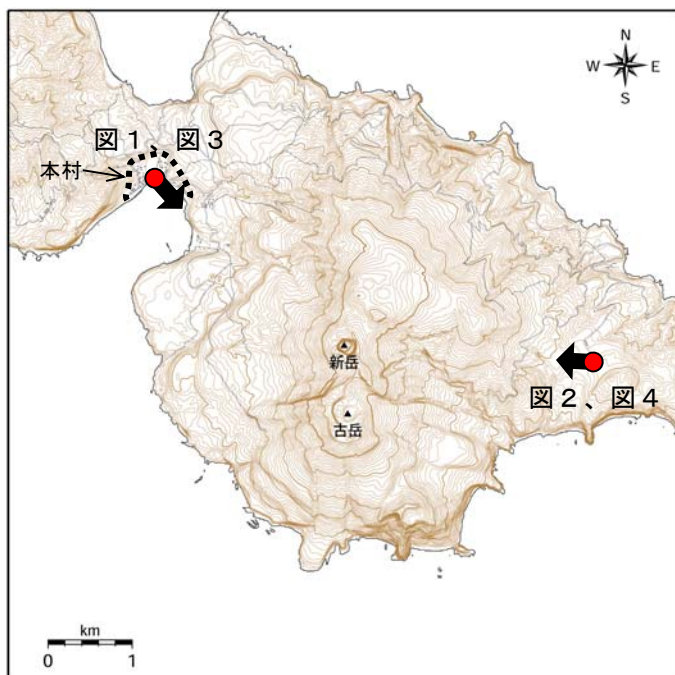


図 5 口永良部島 写真の撮影位置

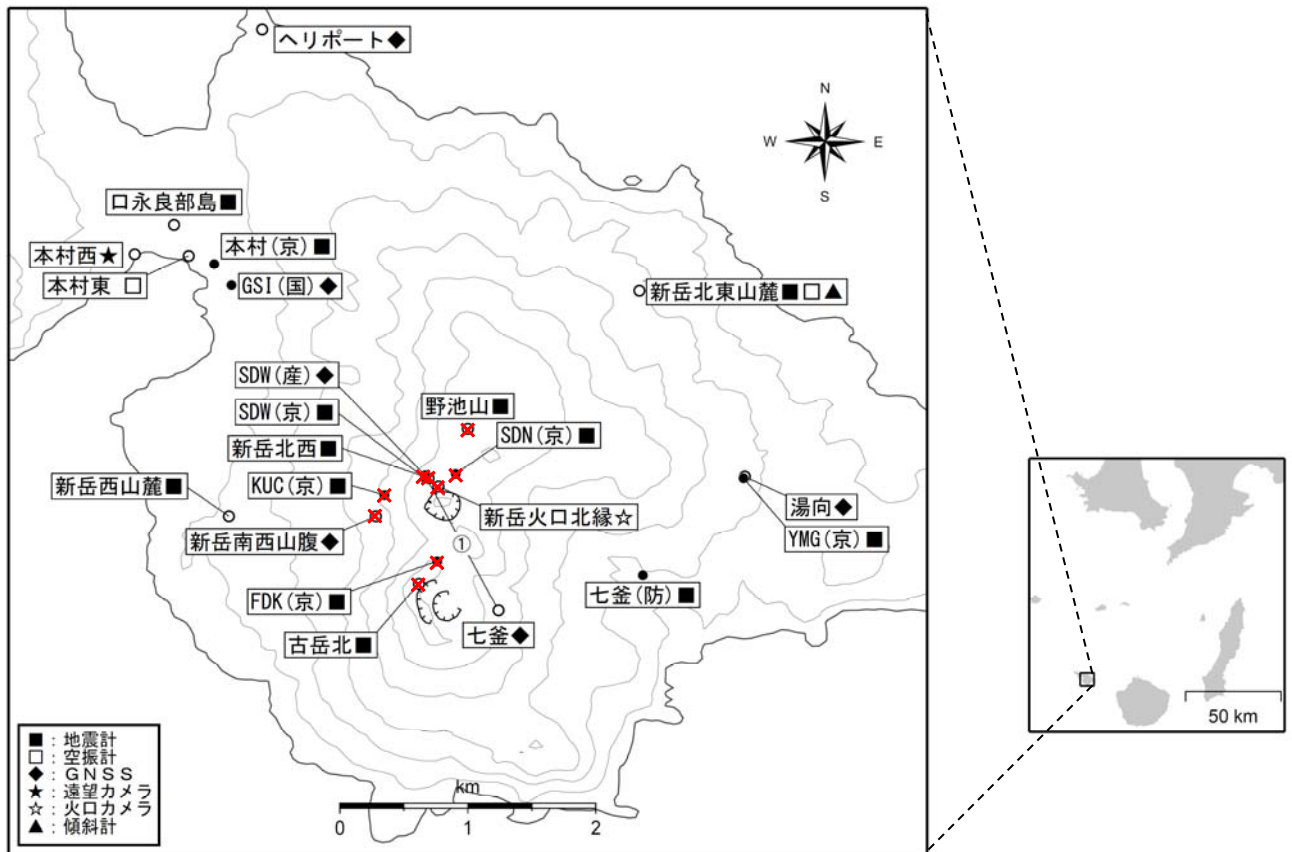


図6 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（京）：京都大学、（産）：産業技術総合研究所

山頂周辺の観測点（図中赤×印）は、8月3日の噴火により障害となっています。



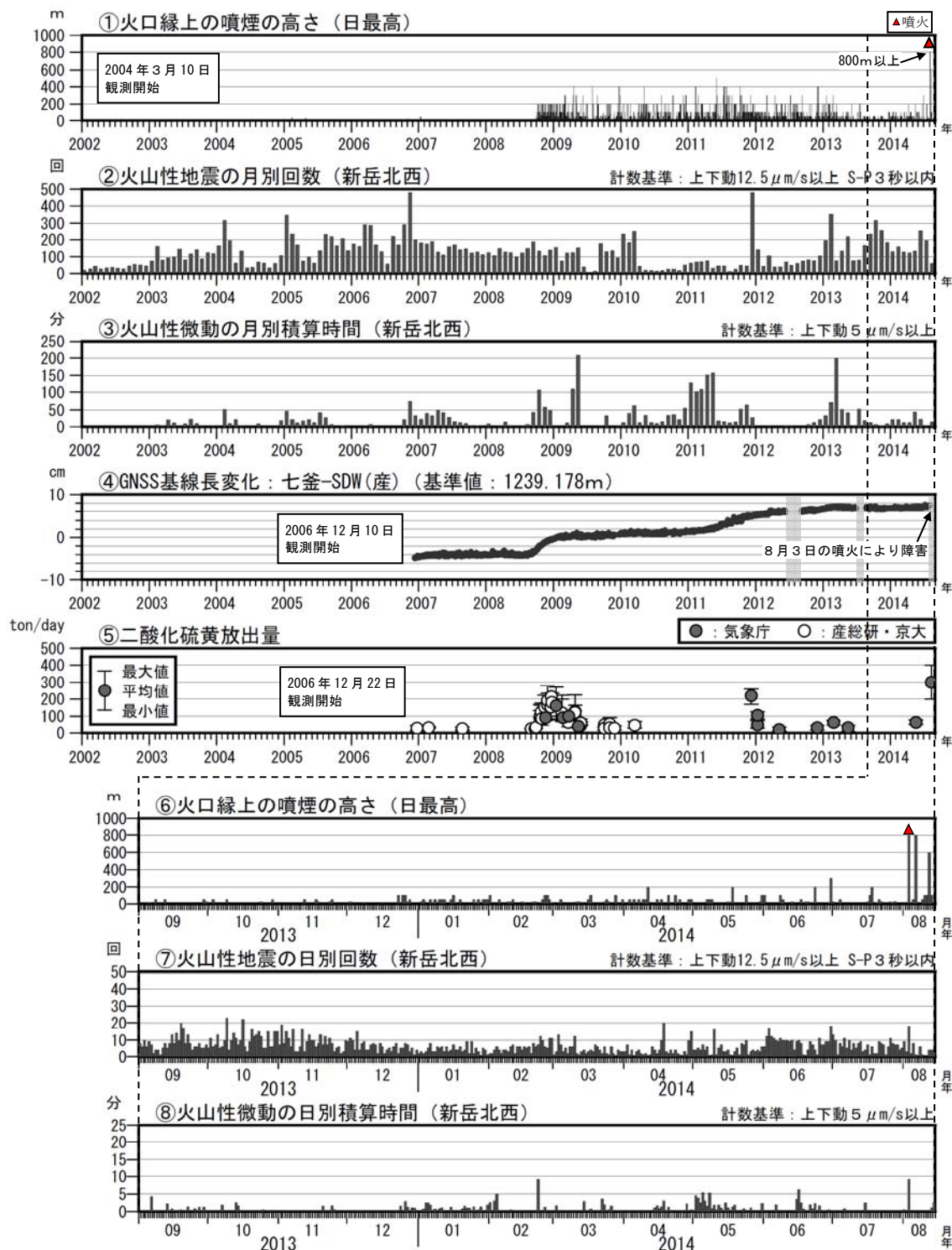


図 7 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2014 年 8 月 14 日）

< 8 月 3～14 日の状況 >

- ・ 3 日 12 時 24 分頃、新岳付近で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上 800m 以上に上がりました。
- ・ 噴火に伴い振幅の大きな火山性微動が発生しました。
- ・ 継続時間の短い火山性微動を 13 日に 1 回、14 日に 3 回観測しました。
- ・ 3 日の噴火以降、火山性地震は少ない状態で経過しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 300 トン（前回 5 月 21 日：60 トン）と噴火前より増加していました。

図中④の基線は図 6 の①に対応しています。灰色部分は観測点障害のため欠測を表しています。  
2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。  
2014 年 8 月 3 日の噴火により、新岳北西観測点が障害となったため、噴火後の火山性地震・火山性微動は新岳北東山麓観測点で計数しています。